

衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 20年度3月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 21年度4月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、1998年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

2008年4月、市民にわかりやすくかつ迅速な情報提供を目指して、リニューアルを行いました。

今回は、2009年3月のアクセス件数、アクセス順位及び2009年4月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については行政運営調整局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (2009年3月)

2009年3月の総アクセス数は、136,302件でした。主な内訳は、感染症55.3%、食品衛生19.6%、保健情報8.9%、検査情報月報3.6%、生活環境衛生1.6%、薬事1.9%でした。

(2) アクセス順位 (2009年3月)

3月のアクセス順位(表1)は、第1位が「マイコプラズマ肺炎について」、2位が「ヘモフィルス-インフルエンザb型菌(Hib)感染症について」、3位が「百日咳について」でした。

国立感染症情報センターによると、2008年末からマイコプラズマ肺炎の報告数の増加がみられ、2009年第13週(3月23日～3月29日)までの報告では、第9週以降増加が続いており、過去5年間の同時期と比較すると、やや多い傾向で推移しています。

2位に「ヘモフィルス-インフルエンザb型菌(Hib)感染症について」が入りました。2008年12月19日から、日本でもHibワクチンが発売開始となり、2009年1月からアクセス数が増加しています。

現在、感染症法に基づくHib感染症の発生動向調査は、Hibによる細菌性髄膜炎(以下、Hib髄膜炎)についてのみ行われています。Hib髄膜炎の予後は不良な場合が多く、致死率は約5%、てんかん、難聴、発育障害などの後遺症が約20%に残ります。早期診断が難しく、抗菌薬に耐性のHibの出現等の問題もあり、治療が困難な場合も少なくありません。

感染症法に基づく細菌性髄膜炎の発生動向調査は、全国約500か所の基幹定点(内科及び小児科医療を提供する300人以上収容する病院)からのみの報告であることから、実際の国内患者発生状況については、ごく限られた情報しか得られていないのが現状です。

平成18年(2006)の細菌性髄膜炎の患者報告数は350名で、病原体の届け出があった患者の約40%がHibによる髄膜炎と報告されました。Hibに感染しても、そのほとんどは無症状ですが、一部の人では髄膜炎、敗血症、喉頭蓋炎、肺炎、関節炎などの重症の感染症を起こす場合があります。

表1 2009年3月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	マイコプラズマ肺炎について	5,525
2	ヘモフィルス-インフルエンザb型菌(Hib)感染症について	5,371
3	百日咳について	2,311
4	英字略語集(ABC順)	2,045
5	電子パンフレット(レジオネラ症を防止するために)	1,996
6	性器ヘルペス感染症について	1,850
7	感染症発生状況	1,805
8	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	1,745
9	ちょっと専門的なデータシート	1,649
10	大麻(マリファナ)について	1,538

データ提供:行政運営調整局IT活用推進課

2008年12月19日から、国内でもHibワクチンが接種可能となり、ワクチンの効果によるHib感染症発生動向の変化を見る意味においても、患者サーベイランスは極めて重要です。Hibワクチンの定期予防接種化に向けた検討としても、国内の患者発生動向を把握することが重要課題となっています。

感染症情報センターでは、2009年4月から、Hib感染症患者の迅速な把握と各関係方面における情報の共有を目的として、Hib感染症を診断した医師よりその情報を発信していただき、その情報を共有し、Hib感染症対策に役立てるためのサイト「Hib(b型インフルエンザ菌)感染症発生DB(データベース) 全国のHib感染症発生状況 (<http://idsc.nih.go.jp/disease/hib/hib-db.html>)」を開設しています。

Hib感染症(具体的には、Hibによる髄膜炎、肺炎、菌血症、脳炎、脳症、急性喉頭蓋炎、蜂窩織炎、関節炎、脳膿瘍、硬膜下膿瘍、敗血症、Hib感染症の後遺症として発症した水頭症等)の重症感染症を診察・診療された時には、その時点で登録していただけるようお願いしています。また、2009年1月1日以降にHib感染症と診断した患者についても登録をお願いしています。診断されてから4週間以内であれば、還元情報として発生状況にその数は反映されますので、日数が経過した後であっても、登録が可能です。

また、後日、Hib感染症であることを否定された場合には、登録を取り消すことができます。

このサイトで、都道府県別・市町村別の発生状況が一般に公開され、より詳細な情報について、医療従事者や衛生部局関係者で情報共有され、対策の一助となります。

(3) 電子メールによる問い合わせ (2009年4月)

2009年4月にホームページのお問合わせフォームを通していただいた電子メールによる問い合わせの合計は、1件でした(表2)。

表2 2009年4月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
当研究所のウェブ改修について	1	衛生研究所

2 追加・更新記事 (2009年4月)

2009年4月に追加・更新した主な記事は、6件でした(表3)。

表3 2009年4月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
4月1日	学校感染症について	更新
4月1日	学校保健安全法について	更新
4月2日	横浜市インフルエンザ等流行情報 12号	追加
4月13日	感染症に気をつけよう(4月号)	追加
4月21日	横浜市における麻しん患者届出状況 (2009年)	更新
4月30日	高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生状況	更新